



Coca-Cola zero® 2012  
Suzuka 8 hours



イベント情報 Vol.1

2012年6月13日  
株式会社モビリティランド  
鈴鹿サーキット

“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第35回大会  
ミック・ドゥーハン氏の来場決定！  
特別企画展示車両及びデモラン車両も決定

7月26日(木)～29日(日)に鈴鹿サーキット(三重県)にて開催される、2012 FIM世界耐久選手権シリーズ第3戦“コカ・コーラ ゼロ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第35回大会において、5年連続GP500チャンピオンであり、1991年鈴鹿8耐ウイナーでもある、ミック・ドゥーハン氏の来場が決定しました。

大会当日は、ドゥーハン氏が1991年に優勝を飾った際のマシンであるHonda RVF750にて、デモンストレーションランを行う予定です。

※デモンストレーションランスケジュールは決定次第ご案内いたします。

■主な経歴

1965年6月4日生まれ 47歳  
オーストラリア・ブリスベン出身

1987年 鈴鹿8耐初出場  
1989年 WGP(現MotoGP)デビュー  
1991年 鈴鹿8耐優勝(ワイン・ガードナー組)  
1994年 WGPチャンピオン



【通算成績】

《鈴鹿8耐》  
参戦数: 6回(1987年～1991年、1993年)  
優勝回数: 1回(1991年)  
ポールポジション: 4回(1989年～1991年、1993年)

《WGP》

WGP参戦期間: 1989年～1999年  
参戦数: 137レース  
54勝、58ポールポジション、表彰台95回  
世界チャンピオン5回(1994年～1998年)

■デモンストレーションラン

8耐で記憶に残る活躍をしたマシンが国際レーシングコースを当時を彷彿させる姿でデモンストレーションランを行います。

●走行車両



Honda RVF750 <1991>  
#11 W・ガードナー/M・ドゥーハン



Honda RVF/RC45 <1997>  
#33 伊藤真一/宇川徹



SUZUKI GSX-R750 <1986>  
#12 辻本聡/K・シュワッツ



SUZUKI GS1000 <1978>  
#2 W・クーリー/M・ポールドウィン



YAMAHA YZF750(OWB7) <1990>  
#21 平忠彦/E・ローソン

※天候等により、スケジュール・イベント内容が変更となる場合がございます。



2012 FIM Endurance World Championship Series  
The 35th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT  
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan  
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568



OFFICIAL SPONSOR



特別企画展示「情熱の8耐～語り継ぎたいこと～」

■レーシングマシンと市販バイクとの比較展示

各メーカー・チームが威信をかけて、速さと強さを競い合う8耐。そのマシンの技術は時として、市販バイクへとフィードバックされ、そして再びレーシングマシンの進化の源となりました。この展示では、8耐に情熱をかけて誕生したレーシングマシン、市販バイクを当時のライバル関係と共に紹介します。

- ・開催日：7月27日(金)～29日(日)
- ・開催場所：GPスクエア 特設テント



KAWASAKI ZXR-7 <1993>  
#1 S・ラッセル/A・スライト



YAMAHA FZR750(0W74) <1985>  
#21 K・ロバーツ/平忠彦

●レーシングマシン

Honda	▼RVF750 <1990> #11 W・ガードナー/M・ドゥーハン リタイア レース序盤から独走体制を築くも、40周目にシケインで痛恨の転倒し、平/ローソン組にトップを明け渡す。猛烈な追い上げをみせるものの、102周目のヘアピンでガス欠により無念のリタイア。
	▼RVF750 <1991> #11 W・ガードナー/M・ドゥーハン 優勝 3年連続のポールポジションを獲得。決勝レースでは、レインコンディションになり、14時にライトオンサインが出される事態に。ガードナー/ドゥーハン組が終始トップを堅持し、前年の雪辱を遂げた。ドゥーハンは8耐初優勝。
	▼RVF/RC45 <1997> #33 伊藤真一/宇川徹 優勝 台風の影響で天候が荒れた大会になったものの、ライバル勢が相次ぐ転倒で優勝争いから脱落。レース序盤に独走体制を築いた伊藤/宇川組が、目まぐるしく変化する路面コンディションに対応し、8時間フルタイムのレースで日本人ペアとして初優勝を遂げた。
KAWASAKI	▼ZXR-7 <1993> #1 S・ラッセル/A・スライト 優勝 トップを走行するチームに転倒やマシントラブルなどのアクシデントが襲うなか、ラッセル/スライト組がレース終盤でトップに立つと、2位以下をラップ遅れにする快進撃を見せ、TT-F1レギュレーション最終年に優勝。KAWASAKIにとっては、鈴鹿8耐初優勝となった。
	▼GS1000 <1978> #2 W・クーリー/M・ボールドウィン 優勝 ワークス、コンストラクター、プライベーターの闘いという図式が打ち出された第1回大会。無敵艦隊と呼ばれたHonda RCB勢がまさかの戦線離脱。トラブルを克服しながら、クーリー/ボールドウィン組が194周を走破。記念すべき初代勝者となる。
SUZUKI	▼GSX-R750 <1986> #12 辻本聡/K・シュワッツ 3位 カウルの小型化に合わせて、低いスクリーン形状など、独特なものに仕上がっている。左足を骨折していた辻本のために取り付けられていたシーソー式シフトペダルにトラブルが発生。修復の後、怒濤の追い上げで3位入賞を果たした。
	▼FZR750(0W74) <1985> #21 K・ロバーツ/平忠彦 リタイア 1983年に現役を引退した、K・ロバーツが8耐に復帰。スタートでエンジンが掛からず、最後尾に順位を下げてしまうものの、1周毎に順位を挽回し38周目にはトップに踊り立つ。しかし、レース残り約30分にコントロールライン手前で平が駆るマシンがストップ。そのドラマチックなレース展開は今もなお語り草となっている。
YAMAHA	▼YZF750(0WB7) <1990> #21 平忠彦/E・ローソン 優勝 ガードナー/ドゥーハン組がレース序盤に独走体制を築くものの、ガス欠によりストップ。平/ローソン組が順調にラップを重ねて、当時の新記録となる205周を走破し、平は悲願の鈴鹿8耐初優勝を遂げた。

●市販バイク

Honda VFR750R/RC30 <1987>、Honda RVF/RC45 <1994>、KAWASAKI ZXR750 <1993>、YAMAHA FZ750 <1985>、YAMAHA FZR750R(0W01) <1989>



# Coca-Cola zero® 2012 Suzuka 8 hours



## 今年の“コカ・コーラ ゼロ”グッズが決定！

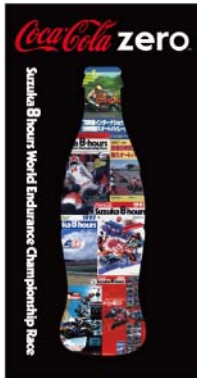
“コカ・コーラ ゼロ”と鈴鹿サーキットのコラボアイテムが続々登場。GPスクエア内のアニバーサリーストアや、サーキットプラザにてお買い求めいただけます。



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
マフラータオル 35th(ブラック・ホワイト) 1,500円



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
キャップ 35th(ブラック・ホワイト) 2,000円



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
35周年記念バスタオル 4,000円



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
35周年記念スポーツタオル 2,800円



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
Tシャツ Winner 35th  
(ブラック・ホワイト) 2,800円



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
レディースTシャツ Winner 35th  
(ブラック・ホワイト) 2,600円



“コカ・コーラ ゼロ”× 鈴鹿8耐  
キャンバーストートバッグ 35th  
(ブラック・ホワイト) 2,100円

価格は全て税込  
※デザインなどは変更となる場合もございます。



2012 FIM Endurance World Championship Series  
The 35th "Coca-Cola Zero" Suzuka 8hours Endurance Road Race

SUZUKA CIRCUIT  
7992 Ino-cho Suzuka-shi, Mie-ken, 510-0295 Japan  
Tel 81 59 3781111 Fax 81 59 3784568

